福岡都市圏の人口構造の変化

～最新の地域メッシュ統計からみた未来像～

2013年3月

DBJ 株式会社日本政策投資銀行

要旨

0. はじめに

当行九州支店では、2010年5月発行のレポート(＊)において、福岡市における人口の都心シフトとくに20代の若年女性等を中心に居住人口の都心シフトが進展していることを指摘した。本稿では、福岡市から範囲を広げ、最新の国勢調査による地域メッシュ統計のマップ化等により、福岡都市圏(10市10町)の人口構造の変化について数値化・視覚化することで、改めて整理を行ったものである。

(＊)福岡における若年居住人口の都心シフト～中心地2km圏内の20代人口増加率:21%(95-05年度)～

1. 福岡都市圏の年齢構成別人口

福岡都市圏の総人口は2000～2010年で176,278人増加(7.5%増)。その内訳を年齢構成別にみると、年少人口(0～14歳)は▲3,665人、生産年齢人口(15～64歳)は＋27,135人、老年人口(65歳以上)は＋138,289人と、老年人口が2000年より42.9%増と最も増加している。老年人口は福岡都市圏全域において増加し、福岡都市圏総人口の年齢構成別割合でも、老年人口の割合のみ増加しており、総人口の増加した大半は老年人口と分かる。

2. 福岡都市圏の人口分布

福岡都市圏の人口増減を地域メッシュ統計でみると、総人口は特に中心部の地下鉄沿線で増加している。年少人口は地下鉄沿線では増加がみられるものの全体的に減少、生産年齢人口は特に中心部の地下鉄沿線で増加し、郊外での増加は一部特定の地域のみとなっている。また、老年人口は鉄道沿線などの従来からの住宅地や中心部などを中心にほぼ全体的に増加している。年少・生産年齢人口は地域によって増減に差がみられるものの、老年人口は鉄道沿線など従来からの住宅地や中心部など、福岡都市圏全域において万遍なく増加しており、労働力を担う生産年齢人口は都心に集中する傾向がある一方で、老年人口は福岡都市圏全体に広がりをみせていると言える。

3. 福岡都市圏の高齢化率

福岡都市圏の高齢化率は、2000～2010年の10年間で4.7%ﾎﾟｲﾝﾄ増加、2010年には高齢化率21%以上を超える地域も見受けられ、「高齢化社会」から「高齢社会」、更には「超高齢社会」へと変化しつつあると言える。福岡都市圏の高齢化率増減を地域メッシュ統計でみると、全体的に高齢化率増が0.1～10.0%ﾎﾟｲﾝﾄの地域が目立ち、10年間で高齢化は広範囲において確実に進展していると言える。しかしながら、中心部である地下鉄沿線では0.1～5.0%ﾎﾟｲﾝﾄの地域が多く分布し、郊外ほど高齢化は進展していないと言える。

4. 他都市比較(高齢化率・人口伸び率)

高齢化率を政令指定都市と東京23区で比較すると、福岡市は21地域中下位と全国平均を下回る結果であり、福岡市の高齢化はそれほど進展していないと窺える。しかし、2010年には21地域中の半数以上が「超高齢社会」へ突入し、福岡市も同じ変遷を辿ることが想定される。 また、福岡市の高齢化率が他都市ほど高くないのは、若い世代の年少人口・生産年齢人口が他都市に比べて増加していることが一因と言える。

5. 福岡都市圏の世帯構造

福岡都市圏の一般世帯数は 2000～2010年で160,733世帯増加(17.3%増)。その内訳を世帯構成別にみると、家族の基本形となる核家族世帯は＋61,349世帯、単独世帯は＋101,616世帯、その他世帯は▲2,556世帯と、単独世帯が2000年より＋31.2%と最も増加している。10年間の増加世帯160,733世帯のうちの約6割が単独世帯と突出しており、福岡都市圏一般世帯数における世帯構成別の割合をみても、この10年間で単独世帯のみが増加し、全世帯のうちの約4割は単独世帯となっている。

要旨

6. 福岡都市圏の単独世帯

福岡都市圏総人口における年代別単独世帯数は、60代・70代以上では伸び率が約7割超と、他の年代と比べても、単独世帯の増加は顕著である。また、単独世帯と人口の伸び率をみると、人口の伸び率以上に単独世帯の伸び率が増加している。単独世帯の年代別割合は、2000～2010年にかけて10～20代が減少したのに対し、30代以上は上昇しており「一人暮らし＝若者」というイメージは低下してきていることが分かる。

7. 参考資料－ ①福岡市の転入超（社会増減）

②福岡都市圏の総人口分布（実数）
③福岡都市圏の年少人口分布（実数）
④福岡都市圏の生産年齢人口分布（実数）
⑤福岡都市圏の老年人口分布（実数）

8. まとめ

○確実に少子高齢化が進み、福岡都市圏も「高齢化社会」から「超高齢社会」へと移行
○「一人暮らし＝若者」のイメージ　から　「一人暮らし＝高齢者」メイン　へ

これまで見てきたとおり、2000～2010年の福岡都市圏の人口は、全体では増加しているものの、その内容をみると、将来の人口構造は楽観視できるものではないと言える。

将来の福岡都市圏における懸念材料としては、少子高齢化による労働力不足や高齢化進展による介護・社会保障に対する負担増などが挙げられよう。また、身近な問題としては、高齢単独世帯増加にともない買い物、通院などの生活利便性が低下していく可能性、郊外住宅で顕著に見られる空き家の増加などにともなう新たな安全対策の必要性や、これらを踏まえた地域コミュニティの在り方の見直しなどが考えられ、今後、徐々にこうした課題が浮き彫りとなってくるであろう。

また、福岡市は全国の政令指定都市・東京23区の中でも、高齢化の進展が比較的遅い地域であることも分かった。しかしながら、福岡都市圏全体としては、将来訪れる「超高齢社会」を視野に入れ、高齢化が先行している地域も参考としながら、全てのひとが住みよいまちづくりを進めていくことが必要ではないだろうか。

（お問い合わせ先）
〒810－0001 福岡市中央区天神2－12－1天神ビル2F
（株）日本政策投資銀行九州支店
企画調査課 TEL 092－741－7737

目次

0. はじめに …… P. 5

1. 福岡都市圏の年齢構成別人口 …… P. 6

2. 福岡都市圏の人口分布 …… P. 7

3. 福岡都市圏の高齢化率 …… P. 9

4. 他都市比較
- ①高齢化率 …… P. 10
- ②人口伸び率 …… P. 11

5. 福岡都市圏の世帯構造 …… P. 12

6. 福岡都市圏の単独世帯 …… P. 13

7. 参考
- ①福岡市の転入超（社会増減） …… P. 14
- ②福岡都市圏の総人口分布（実数） …… P. 15
- ③福岡都市圏の年少人口分布（実数） …… P. 16
- ④福岡都市圏の生産年齢人口分布（実数） …… P. 17
- ⑤福岡都市圏の老年人口分布（実数） …… P. 18

8. まとめ …… P. 19

0. はじめに

当行九州支店では、2010年5月発行のレポート（※）において、福岡市における人口の都心シフトとくに20代の若年女性等を中心に居住人口の都心シフトが進展していることを指摘した。本稿では、福岡市から範囲を広げ、最新の国勢調査による地域メッシュ統計のマップ化等により、福岡都市圏（10市10町）の人口構造の変化について数値化・視覚化することで、改めて整理を行ったものである。
（※）2010年5月発行：福岡における若年居住人口の都心シフト
～中心地2km圏内の20代人口増加率：21%（95-05年度）～

調査内容　・本稿における定義づけ等

□調査内容
・国勢調査を元に、最新の地域メッシュ統計データを利用し、2000～2010年までの10年間の福岡都市圏の人口構造の変化について視覚化・数値化。
・特に特徴のみられた65歳以上の老年人口に焦点を当て、高齢化率・世帯構造の変化から実態を調査した。

□年齢構造の区別は、総務省統計局の定義を元に以下の通りとした。
・年少人口・・・0～14歳　　・生産年齢人口・・・15～64歳　　・老年人口・・・65歳以上（高齢者）

□全人口に対する65歳以上の人口割合（高齢化率）を次のように分類した。
・65歳以上の人口の割合が、7%超で「高齢化社会」
14%超で「高齢社会」
21%超で「超高齢社会」
上記は、国連による研究報告書（＊）においても定義されており、本稿における上でも同様の分類とした。
（＊）1956年発表「 The Aging Population and Its Economic and Social Implications」

□データ上の数値は、合併や市制施行がある場合は、調査時点において市町村合併を調整している。

□人口・世帯における各項目の割合については、分母から「不詳」を除いて算出。

□地域メッシュ統計マップについての注意事項
・1メッシュ＝約1×1km
・統計上、秘匿措置がとられている地域についてはマップ上には未反映とした。

□福岡都市圏の定義
・2010年国勢調査の「常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者及び15歳以上通学者数に基づいた10%通勤・通学圏」を福岡都市圏と位置づけた（2010.10.1時点）
→地域は次のとおり
福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市
古賀市、福津市、糸島市、小郡市、
那珂川町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町
新宮町、久山町、粕屋町、筑前町、基山町（佐賀県）
以上、10市10町とする。
（本稿の地域メッシュ統計マップにおいて、グレーで囲んだ範囲である）

(c)Esri Japan

1. 福岡都市圏の年齢構成別人口

まず、福岡都市圏の人口を2000～2010年の10年間で比較、数値化し人口構造を探った。

●福岡都市圏の総人口は2000年より7.5%増加し、この10年間で176,278人増加した。その内訳を年齢構成別にみると、年少人口（0～14歳）は▲3,665人、生産年齢人口（15～64歳）は＋27,135人、老年人口（65歳以上）は＋138,289人と、老年人口が2000年より42.9%増と最も増加している【図表1】。
●地域別でみても、老年人口は、福岡都市圏全域において増加している【図表1】。
●福岡都市圏総人口における年齢構成別の割合は、10年間で老年人口の割合のみ増加している【図表2】。
このことから、この10年間で福岡都市圏の総人口は7.5%増加しているものの、その大半は老年人口（65歳以上）ということが分かる。

【図表1】 福岡都市圏の人口（2000～2010）

	総人口（人）				年少人口（0~14歳）（人）				生産年齢人口（15～64歳）（人）				老年人口（65歳以上）（人）			
	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)
福岡市	1,341,470	1,463,743	122,273	9.1	191,092	191,824	732	0.4	967,799	997,884	30,085	3.1	177,771	254,085	76,314	42.9
筑紫野市	93,049	100,172	7,123	7.7	15,267	15,175	▲ 92	▲ 0.6	65,000	66,368	1,368	2.1	12,750	18,504	5,754	45.1
春日市	105,219	106,780	1,561	1.5	19,243	17,670	▲ 1,573	▲ 8.2	74,390	71,569	▲ 2,821	▲ 3.8	11,095	17,151	6,056	54.6
大野城市	89,414	95,087	5,673	6.3	15,563	15,363	▲ 200	▲ 1.3	62,976	63,292	316	0.5	10,856	16,290	5,434	50.1
宗像市	92,056	95,501	3,445	3.7	14,339	12,807	▲ 1,532	▲ 10.7	61,826	60,993	▲ 833	▲ 1.3	15,557	21,476	5,919	38.0
太宰府市	66,099	70,482	4,383	6.6	8,948	10,045	1,097	12.3	46,351	45,099	▲ 1,252	▲ 2.7	10,188	15,129	4,941	48.5
古賀市	55,476	57,920	2,444	4.4	9,661	8,450	▲ 1,211	▲ 12.5	38,150	38,263	113	0.3	7,563	11,134	3,571	47.2
福津市	55,778	55,431	▲ 347	▲ 0.6	7,877	7,085	▲ 792	▲ 10.1	37,405	34,005	▲ 3,400	▲ 9.1	10,380	14,337	3,957	38.1
糸島市	95,040	98,435	3,395	3.6	16,226	14,165	▲ 2,061	▲ 12.7	63,045	62,542	▲ 503	▲ 0.8	15,655	21,548	5,893	37.6
小郡市	54,583	58,499	3,916	7.2	9,032	9,094	62	0.7	36,187	36,205	18	0.0	9,356	13,162	3,806	40.7
那珂川町	45,548	49,780	4,232	9.3	8,727	9,057	330	3.8	31,627	32,702	1,075	3.4	5,070	7,973	2,903	57.3
宇美町	38,126	38,592	466	1.2	6,208	5,648	▲ 560	▲ 9.0	26,815	25,949	▲ 866	▲ 3.2	5,070	6,991	1,921	37.9
篠栗町	29,389	31,318	1,929	6.6	5,089	5,335	246	4.8	19,748	19,882	134	0.7	4,550	6,101	1,551	34.1
志免町	37,794	43,564	5,770	15.3	5,979	7,439	1,460	24.4	26,251	28,053	1,802	6.9	5,336	8,055	2,719	51.0
須恵町	25,086	26,044	958	3.8	3,815	3,939	124	3.3	17,328	16,465	▲ 863	▲ 5.0	3,864	5,635	1,771	45.8
新宮町	22,431	24,679	2,248	10.0	4,247	4,352	105	2.5	15,315	16,487	1,172	7.7	2,849	3,837	988	34.7
久山町	7,640	8,373	733	9.6	1,154	1,340	186	16.1	5,006	5,051	45	0.9	1,480	1,982	502	33.9
粕屋町	34,811	41,997	7,186	20.6	5,871	7,572	1,701	29.0	24,777	28,007	3,230	13.0	4,146	6,190	2,044	49.3
筑前町	28,926	29,155	229	0.8	4,633	4,067	▲ 566	▲ 12.2	18,763	18,193	▲ 570	▲ 3.0	5,488	6,888	1,400	25.5
基山町（佐賀県）	19,176	17,837	▲ 1,339	▲ 7.0	3,475	2,354	▲ 1,121	▲ 32.3	12,567	11,452	▲ 1,115	▲ 8.9	3,134	3,979	845	27.0
福岡都市圏合計	**2,337,111**	**2,513,389**	**176,278**	**7.5**	**356,446**	**352,781**	**▲ 3,665**	**▲ 1.0**	**1,651,326**	**1,678,461**	**27,135**	**1.6**	**322,158**	**460,447**	**138,289**	**42.9**

【図表2】 福岡都市圏の年齢構成別割合（2000～2010）

（%）

	年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（＝高齢化率）（65歳以上）
2000年	15.3	70.9	13.8
2010年	14.2	67.4	18.5
増減（%ポイント）	▲ 1.1	▲ 3.5	4.7

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

2. 福岡都市圏の人口分布

次に、地域メッシュ統計における福岡都市圏の人口増減（2000～2010年）を年齢構成別にみた。

●総人口は、福岡都市圏の中でも特に中心部の地下鉄沿線で増加がみられる【図表3】。年少人口（0～14歳）は、地下鉄沿線では増加がみられるものの、全体的に減少している【図表4】。生産年齢人口（15～64歳）は、郊外では一部特定の地域で増加しているものの、特に中心部の地下鉄沿線で増加【図表5】。老年人口（65歳以上）は、鉄道沿線などの従来からの住宅地や中心部などを中心にほぼ全体的に増加している【図表6】。
このことから、年少・生産年齢人口は地域によって増減に差がみられるものの、老年人口は鉄道沿線など従来からの住宅地や中心部など、福岡都市圏全域において万遍なく増加しており、労働力を担う生産年齢人口は都心に集中する傾向がある一方で、老年人口は福岡都市圏全体に広がりをみせている。

【図表3】 福岡都市圏の総人口増減（2000～2010）

【図表4】 福岡都市圏の年少人口増減（2000～2010）

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

2. 福岡都市圏の人口分布

【図表5】 福岡都市圏の生産年齢人口増減（2000～2010）

【図表6】 福岡都市圏の老年人口増減（2000～2010）

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

3. 福岡都市圏の高齢化率

次に、老年人口（65歳以上）の増加が進んでいることから、福岡都市圏の高齢化の進捗度合いを高齢化率から調査した。

●福岡都市圏の高齢化率は、2000～2010年の10年間で4.7%ポイント増加（00年：13.8%→10年：18.5%）、地域別でみると2010年には高齢化率21%以上を超える地域も見受けられ、「高齢化社会」から「高齢社会」、更には「超高齢社会」へと変化しつつあると言える【図表7】。
●福岡都市圏の高齢化率増減マップをみると、全体的に薄黄緑色～黄色のエリア（0.1～10%ﾎﾟｲﾝﾄ）が目立ち、2000～2010年の10年間で高齢化は広範囲において確実に進展していると言える。しかしながら、中心部である地下鉄沿線では薄黄緑色（0.1～5.0%ﾎﾟｲﾝﾄ）が多く分布しており、郊外ほど高齢化は進展していないと言える【図表8】。

【図表7】 福岡都市圏の高齢化率（2000～2010）

（高齢化率：%、増減：%ﾎﾟｲﾝﾄ）

	福岡市	筑紫野市	春日市	大野城市	宗像市	太宰府市	古賀市	福津市	糸島市	小郡市	那珂川町	宇美町	篠栗町	志免町	須恵町	新宮町	久山町	粕屋町	筑前町	基山町（佐賀県）	福岡都市圏合計
2000年	13.3	13.7	10.6	12.1	17.0	15.6	13.7	18.6	16.5	17.1	11.2	13.3	15.5	14.2	15.5	12.7	19.4	11.9	19.0	16.3	**13.8**
2010年	17.6	18.5	16.1	17.2	22.5	21.5	19.2	25.9	21.9	22.5	16.0	18.1	19.5	18.5	21.6	15.5	23.7	14.8	23.6	22.4	**18.5**
増減	4.3	4.8	5.5	5.0	5.6	6.0	5.6	7.2	5.4	5.4	4.9	4.8	4.0	4.3	6.2	2.8	4.3	2.9	4.6	6.0	**4.7**

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

＜参考＞

［全国の高齢化率］

	高齢化率
2000年	17.4%
2010年	23.0%

［高齢化率による分類］国連による定義

	高齢化率
高齢化社会	7%超
高齢社会	14%超
超高齢社会	21%超

【図表8】 福岡都市圏の高齢化率増減（2000～2010）

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

4. 他都市比較－①高齢化率

では、福岡市の高齢化の進捗具合は他都市と比べてどの程度なのか、政令指定都市と東京23区とで比較してみる。

●福岡市の高齢化率は、2000年（13.3%）、2010年（17.6%）とともに21地域中下位、全国平均（00年：17.4%、10年：23.0%）を下回る結果である【図表9・10】。
●高齢化が進展する中でも、他都市と比較すると、福岡市の高齢化はそれほど進展していないと窺える。しかし、2010年には21地域中の半数以上が「超高齢社会」へ突入したことから、福岡市も同じ変遷を辿ることが想定される【図表9・10】。

【図表9】 福岡市の高齢化率（2000年）

【図表10】 福岡市の高齢化率（2010年）

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

4. 他都市比較－②人口伸び率

福岡市の高齢化率が他都市と比較するとそれほど高くない理由を、2000～2010年の年齢構成別人口の伸び率から探った。

●福岡市の年少人口（0～14歳）・生産年齢人口（15～64歳）・老年人口（65歳以上）の伸び率は全国平均を上回り、増加している。他都市と比較すると、年少人口は21地域中4位、生産年齢人口では21地域中3位の高い伸び率となっており、若い世代の年少人口、生産年齢人口が増加している【図表11】。

【図表11】年齢構成別人口の伸び率（2000～2010）

（%）

	年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）
全国	▲ 9.0	▲ 6.0	32.9
札幌市	▲ 9.7	0.5	49.1
仙台市	▲ 6.8	▲ 3.4	44.1
さいたま市	▲ 1.8	▲ 0.4	61.0
千葉市	0.2	▲ 6.3	77.6
東京23区	5.1	3.5	32.6
横浜市	2.4	▲ 0.9	54.3
川崎市	8.7	7.0	53.4
相模原市	▲ 6.7	▲ 4.2	77.0
新潟市	▲ 12.5	▲ 5.1	30.0
静岡市	▲ 11.4	▲ 10.4	35.8
浜松市	▲ 6.6	▲ 5.7	32.4
名古屋市	▲ 4.5	▲ 2.8	39.3
京都市	▲ 8.4	▲ 8.2	29.4
大阪市	▲ 6.0	▲ 4.8	34.6
堺市	▲ 0.3	▲ 9.5	53.8
神戸市	▲ 5.7	▲ 5.0	40.3
岡山市	▲ 2.8	▲ 1.4	31.8
広島市	▲ 3.6	▲ 5.1	42.5
北九州市	▲ 9.9	▲ 11.3	26.1
福岡市	0.4	3.1	42.9
熊本市	▲ 7.2	▲ 3.7	26.3

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

5. 福岡都市圏の世帯構造

次に、人口と世帯の関係について探るべく2000～2010年の福岡都市圏の世帯動向について調査した。

●福岡都市圏の一般世帯数は2000年より17.3%増加し、この10年間で160,733世帯増加した。その内訳を世帯構成別にみると、家族の基本形となる核家族世帯は＋61,349世帯、単独世帯は＋101,616世帯、その他世帯は▲2,556世帯と、単独世帯が2000年より＋31.2%と最も増加している【図表12】。10年間の増加世帯160,733世帯のうちの約6割が単独世帯と突出して多いことがわかる。
●福岡都市圏一般世帯数における世帯構成別の割合をみても、この10年間で単独世帯のみが増加（00年:35.0%→10年:39.1%）し、全世帯のうちの約4割は単独世帯となっている【図表13】。

【図表12】 福岡都市圏の一般世帯数（2000～2010）

	一般世帯総数（世帯）				核家族世帯（世帯）				単独世帯（世帯）				その他世帯（世帯）			
	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)	2000年	2010年	増減	伸び率(%)
福岡市	594,861	706,428	111,567	18.8	296,652	327,824	31,172	10.5	256,207	337,103	80,896	31.6	42,002	41,400	▲ 602	▲ 1.4
筑紫野市	32,419	37,636	5,217	16.1	20,955	24,682	3,727	17.8	7,687	9,401	1,714	22.3	3,777	3,546	▲ 231	▲ 6.1
春日市	38,740	41,006	2,266	5.8	25,877	27,349	1,472	5.7	10,030	10,580	550	5.5	2,833	2,983	150	5.3
大野城市	33,233	36,748	3,515	10.6	21,622	24,162	2,540	11.7	8,891	9,782	891	10.0	2,720	2,787	67	2.5
宗像市	32,278	37,037	4,759	14.7	21,489	23,446	1,957	9.1	6,936	9,921	2,985	43.0	3,853	3,670	▲ 183	▲ 4.7
太宰府市	24,007	27,799	3,792	15.8	15,403	17,617	2,214	14.4	6,068	7,785	1,717	28.3	2,536	2,387	▲ 149	▲ 5.9
古賀市	18,472	21,494	3,022	16.4	12,732	14,271	1,539	12.1	3,579	5,075	1,496	41.8	2,161	2,139	▲ 22	▲ 1.0
福津市	18,589	20,449	1,860	10.0	13,026	14,066	1,040	8.0	3,035	4,168	1,133	37.3	2,528	2,215	▲ 313	▲ 12.4
糸島市	28,310	33,720	5,410	19.1	18,416	21,481	3,065	16.6	3,687	6,504	2,817	76.4	6,207	5,688	▲ 519	▲ 8.4
小郡市	17,232	19,967	2,735	15.9	11,614	13,528	1,914	16.5	2,786	3,815	1,029	36.9	2,832	2,622	▲ 210	▲ 7.4
那珂川町	15,097	17,602	2,505	16.6	10,779	12,456	1,677	15.6	2,527	3,351	824	32.6	1,791	1,784	▲ 7	▲ 0.4
宇美町	11,454	12,848	1,394	12.2	7,941	8,771	830	10.5	1,744	2,384	640	36.7	1,769	1,693	▲ 76	▲ 4.3
篠栗町	9,740	11,049	1,309	13.4	6,563	7,520	957	14.6	1,814	2,264	450	24.8	1,363	1,265	▲ 98	▲ 7.2
志免町	13,073	16,602	3,529	27.0	8,744	10,781	2,037	23.3	2,619	4,186	1,567	59.8	1,710	1,634	▲ 76	▲ 4.4
須恵町	7,874	9,064	1,190	15.1	5,254	5,777	523	10.0	1,233	1,881	648	52.6	1,387	1,406	19	1.4
新宮町	7,705	8,855	1,150	14.9	5,066	6,107	1,041	20.5	1,704	1,868	164	9.6	935	880	▲ 55	▲ 5.9
久山町	2,312	2,653	341	14.7	1,366	1,679	313	22.9	366	398	32	8.7	580	576	▲ 4	▲ 0.7
粕屋町	12,620	16,220	3,600	28.5	7,871	10,201	2,330	29.6	3,214	4,356	1,142	35.5	1,535	1,639	104	6.8
筑前町	8,156	9,279	1,123	13.8	4,981	5,809	828	16.6	1,018	1,537	519	51.0	2,157	1,932	▲ 225	▲ 10.4
基山町（佐賀県）	5,562	6,011	449	8.1	3,768	3,941	173	4.6	736	1,138	402	54.6	1,058	932	▲ 126	▲ 11.9
福岡都市圏合計	**931,734**	**1,092,467**	**160,733**	**17.3**	**520,119**	**581,468**	**61,349**	**11.8**	**325,881**	**427,497**	**101,616**	**31.2**	**85,734**	**83,178**	**▲ 2,556**	**▲ 3.0**

【図表13】 福岡都市圏の世帯構成別割合（2000～2010）

（%）

	核家族世帯	単独世帯	その他世帯
2000年	55.8	35.0	9.2
2010年	53.2	39.1	7.6
増減（%ポイント）	▲ 2.6	4.2	▲ 1.6

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

6. 福岡都市圏の単独世帯

さらに、単独世帯の割合が増加していることから、その実態を年代別に調査した。

●福岡都市圏総人口における年代別単独世帯数をみると、60代・70代以上では伸び率が約7割超となっており、他の年代と比べても、単独世帯の増加は顕著である【図表14】。
●単独世帯の伸び率と人口の伸び率をみると、人口の伸び率以上に単独世帯の伸び率が増加している【図表15】。
●単独世帯の年代別割合をみると、2000～2010年にかけて10～20代が減少したのに対し、30代以上は上昇しており、「一人暮らし＝若者」というイメージは低下してきていることがわかる【図表16】。

【図表14】 福岡都市圏の年代別単独世帯数（2000～2010）

（世帯）

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
2000年	18,353	124,748	48,117	31,261	35,807	30,251	37,344	325,881
2010年	15,464	101,242	71,275	51,427	50,122	52,364	64,820	427,497
伸び率	▲15.7	▲18.8	48.1	64.5	40.0	73.1	73.6	31.2

【図表15】 福岡都市圏年代別の単独世帯と人口の伸び率の変化（2000～2010）

【図表16】 福岡都市圏単独世帯の年代別割合（2000～2010）

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

7. 参考－①福岡市の転入超（社会増減）

福岡市の人口の動きを、社会増減に注目して年齢別・地域別に調査した。

●年齢別にみると、男女ともに就職期にあたる20～24歳の転入超が最も多く、大学等高等教育進学期にあたる15～19歳の転入超がそれに次ぐ。15～24歳の動きが大きいのに対し、それ以外の年代での動きはそれほど見受けられず、福岡市においては、若い世代以外での大きな人口の増減はないと言える【図表17】。

●地域別にみると、東京・関東甲信越へは男女ともかなりの流出がみられる一方で、九州各県からは＋61,089人と、東京・関東甲信越への流出を大きく上回る人口が福岡市へ流入している【図表18】。

このことから、福岡市は若い人を中心に、九州各県から人口が流入し、関東を中心に人口が流出する構図といえる。

【図表17】 福岡市の年齢階級別転入超（＝転入－転出）（2005～2012）

（備考）福岡県HP「ふくおかデータウェブ」より作成

【図表18】 福岡市の地域別転入超（＝転入－転出）（2005～2011）

	男性	女性	合計
北海道	318	75	393
東北	516	479	995
東京	▲ 5,502	▲ 6,324	▲ 11,826
関東甲信越（除東京）	▲ 2,243	▲ 3,171	▲ 5,414
（関東甲信越 計）	▲ 7,745	▲ 9,495	▲ 17,240
北陸	52	92	144
東海	▲ 1,614	▲ 668	▲ 2,282
関西	▲ 665	▲ 1,070	▲ 1,735
中国	2,804	3,691	6,495
四国	612	614	1,226
福岡県	4,973	11,241	16,214
佐賀県	2,104	3,245	5,349
長崎県	6,596	8,654	15,250
熊本県	3,644	4,516	8,160
大分県	1,969	2,902	4,871
宮崎県	1,752	2,484	4,236
鹿児島県	3,113	3,896	7,009
（九州 計）	24,151	36,938	61,089
沖縄県	210	191	401
全国計	18,639	30,847	49,486

（備考）総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告年報」より作成

7. 参考－②福岡都市圏の総人口分布（実数）

【図表19】 福岡都市圏の総人口(2000)

【図表20】 福岡都市圏の総人口(2010)

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

7. 参考－③福岡都市圏の年少人口分布（実数）

【図表21】 福岡都市圏の年少人口(2000)

【図表22】 福岡都市圏の年少人口(2010)

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

7. 参考－④福岡都市圏の生産年齢人口分布（実数）

【図表23】 福岡都市圏の生産年齢人口(2000)

【図表24】 福岡都市圏の生産年齢人口(2010)

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

7. 参考－⑤福岡都市圏の老年人口分布（実数）

【図表25】 福岡都市圏の老年人口(2000)

【図表26】 福岡都市圏の老年人口(2010)

（備考） 総務省統計局「国勢調査」より作成

8. まとめ

◎福岡都市圏の人口構造の実態（2000～2010年）

年少人口（0～14**歳**）・**生産年齢人口**（15～64**歳**）は地域によって人口増減に差がみられ、増加した地域は都心部を中心に限定的

老年人口（65**歳**～）は一部地域を除き、ほぼ福岡都市圏全域で増加

確実に少子高齢化が進み、福岡都市圏も「高齢化社会」から「超高齢社会」へと移行

さらに、
この10年間で、高齢者の単独世帯数の増加が特に顕著にみられたことから、

「一人暮らし＝若者」のイメージ　から　「一人暮らし＝高齢者」メイン　へ

変化しつつあると言える。

◎今後の課題

これまで見てきたとおり、2000～2010年の福岡都市圏の人口は、全体では増加しているものの、その内容をみると、将来の人口構造は楽観視できるものではないと言える。

将来の福岡都市圏における懸念材料としては、少子高齢化による労働力不足や高齢化進展による介護・社会保障に対する負担増などが挙げられよう。また、身近な問題としては、高齢単独世帯増加にともない買い物、通院などの生活利便性が低下していく可能性、郊外住宅で顕著に見られる空き家の増加などにともなう新たな安全対策の必要性や、これらを踏まえた地域コミュニティの在り方の見直しなどが考えられ、今後、徐々にこうした課題が浮き彫りとなってくるであろう。

また、福岡市は全国の政令指定都市・東京23区の中でも、高齢化の進展が比較的遅い地域であることも分かった。しかしながら、福岡都市圏全体としては、将来訪れる「超高齢社会」を視野に入れ、高齢化が先行している地域も参考としながら、全てのひとが住みよいまちづくりを進めていくことが必要ではないだろうか。

•本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：日本政策投資銀行と明記して下さい。
•本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。

お問い合わせ先　株式会社日本政策投資銀行　九州支店
〒810－0001 福岡市中央区天神2－12－1天神ビル2F

（株）日本政策投資銀行九州支店

企画調査課 TEL 092－741－7737

表紙の地図は（C）Esri Japanを利用して作成